

にも擬すべし、又二江川の川池芝原、曾て織塵點埃のありし
ことなく、常に灑掃したるが如くありて、遊覽の者、奇とせざ
る者なし、この二江川の總状、譬は深山の中に、疊山剩水を設
けたるが如くにて、天然の妙筆紙具に寫し難し、島人傳へい
ふ、神仙遊息の秘區、時あつてか仙樂を奏する、簫鼓清朗の音
ありと、かくて歸路に赴き、山を下るには、登陟よりはますま
す危険にして、斷當絕壁目を眩して、自由に下るべからず、故
に梯子より下るが如く、身と背にし、靜に足を運ふとなり、か
ゝる不思議の靈境奇勝なれども、其僻島深山の中に在て、山路
の危險甚しき所なれば、假令屋久に至る者も、遊觀する者
稀にして、其名天下に顯はれず、其遊觀の人は、手を打て、其奇
勝を歎賞せざる者なし、

栗生川 栗生村に在り、村下に栗生川あり、海に入る、水源は栗

生岳より出、午未の方へ流る、海まで凡そ七里餘、水勢洪大に
して、川幅七十間、深さ八尺程あり、大船出入す、河口より上流
九町許、舟船通ず、村落遷所官倉等、河口より八町ばかり上流
にあり、河口より村落の間、兩岸沙渚にして、蘆荻生茂れり、又
河口より、東の方、海濱長さ四町許、平沙にて、松樹森列せり、其
沙渚の海上に長礁あり、長さ八十間許、突出し、其上は松樹疎
生す、又陸田水田ありて、川を夾めり、兩岸の郊野頗廣し、島中
郊野の廣きは、此地を第一とす、郊野には馬多し、山林は村落
より一里許、奥の方に重層せり、又南方の海上には、七島遙に
見ゆ、此村、山を背にし、河を帶び、海に臨みて、郊野水田岸を夾
む故、風景絶勝にして、畫圖も及びがたし、土民山林、漁鈎、兼用
て其産業廣し、

栗生嶽 栗生村に屬す、村落より丑寅の方、七里許にあり、屋久